

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

台湾経済に頭打ちの兆しが出ている (Asia Weekly (7/19~7/23))

～タイでは生産移管による輸出押し上げ効果がみられる～

発表日: 2010年7月26日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/20 (火)	(香港) 6月失業率 (季調済)	4.6%	4.6%	4.6%
	(台湾) 6月輸出受注 (前年比)	+22.48%	+21.70%	+34.03%
7/21 (水)	(タイ) 6月輸出 (前年比)	+46.3%	+34.5%	+42.1%
	6月輸入 (前年比)	+37.9%	+35.0%	+55.1%
	(マレーシア) 6月消費者物価 (前年比)	+1.7%	+1.7%	+1.6%
7/22 (木)	(台湾) 6月失業率 (季調済)	5.20%	5.16%	5.22%
	(香港) 6月消費者物価 (前年比)	+2.8%	+2.7%	+2.5%
7/23 (金)	(シンガポール) 6月消費者物価 (前年比)	+2.7%	+3.5%	+3.2%
	(台湾) 6月鉱工業生産 (前年比)	+24.33%	+22.00%	+30.99%
	6月商業販売額 (前年比)	+10.52%	+9.80%	+14.96%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【台湾】 ～輸出や生産に頭打ち感がみられるが、高水準の輸出受注を背景に生産は拡大基調が続く見通し～

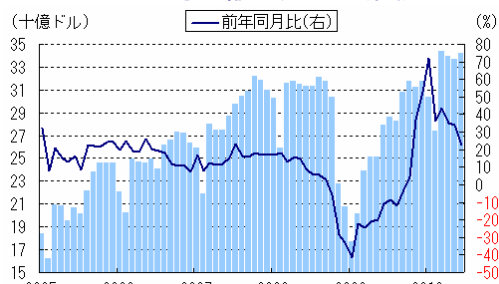
20日に発表された6月の輸出受注は、前年同月比+22.48%と前月(同+34.03%)から伸びが鈍化し、実質ベースでも前月比▲0.5%とわずかに減少した。米国や欧州、日本など先進国が増加したものの、中国向けが同▲6.2%と大きく減少したことが影響した。なお、水準はリーマンショック前を大きく上回っており、先月の中国との経済協力枠組み協定(E C F A)締結により今後は中国やA S E A N向けの拡大が期待される。

22日に発表された6月の失業率は、5.20%と前月(5.22%)から0.02p改善し、昨年1月以来の低水準になった。雇用者数は前月比+2.3万人と昨年8月から11ヶ月連続で増加し、失業者数は前月比▲0.1万人と昨年10月以降9ヶ月連続で減少している。世界経済の回復に伴う輸出拡大で生産が押し上げられ、製造業を中心に雇用が拡大したほか、中国との関係改善で中国本土からの観光客数が急増し、観光関連産業でも雇用が拡大している。足元では輸出受注が高水準で推移し、今後も輸出の拡大が期待される上、E C F A発効後は観光客数のさらなる増加も予想され、雇用環境は改善基調が続くと考えられる。

23日に発表された6月の鉱工業生産は、前年同月比+24.33%と前月(同+30.99%)から鈍化した。前月比も▲0.1%とわずかに減少し、昨年春以降拡大基調が続いた生産に頭打ち感が出ている。ただし、輸出受注は高水準であるなど先行きの輸出拡大が見込まれ、生産も緩やかな拡大が続くであろう。

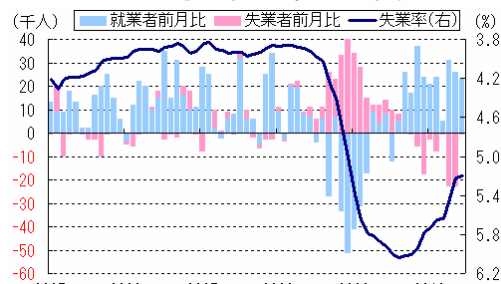
また、同日に発表された6月の商業販売額は、前年同月比+10.52%と前月(同+14.96%)から鈍化したものの、前月比は+0.27%とわずかに増加した。うち卸売売上高は前月比+0.66%と増加した一方、小売売上高は同▲0.70%と減少し、生産や雇用環境と同様に個人消費にも頭打ち感が出ている。しかし、足元は高水準での推移している上、今後の生産拡大による雇用改善が続くことで個人消費の押し上げが期待される。

図1 台湾 輸出受注の推移



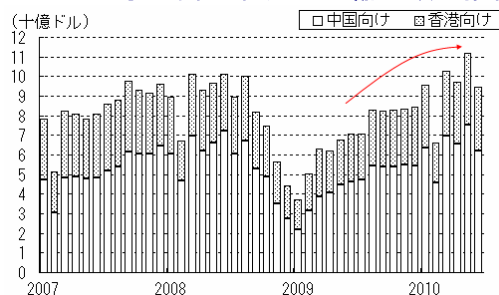
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 台湾 雇用環境の推移



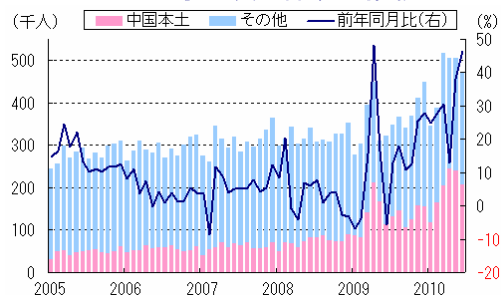
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 台湾 中国・香港向け輸出額の推移



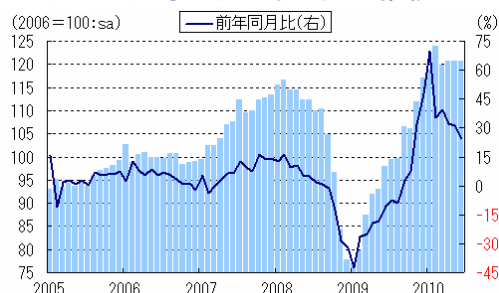
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 台湾 観光客数の推移



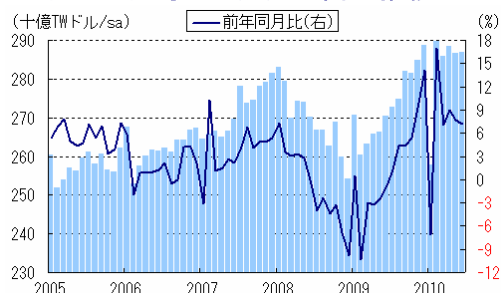
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 台湾 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 台湾 小売売上高の推移

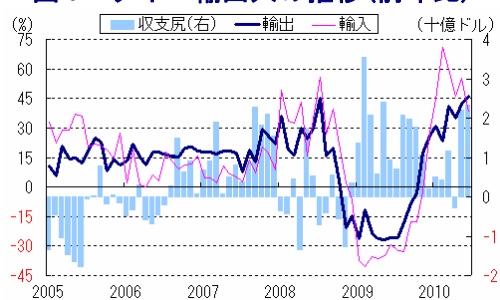


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【タイ】 ～世界経済の堅調に加え、日系企業の生産移管により単月ベースの輸出額は過去最大に～

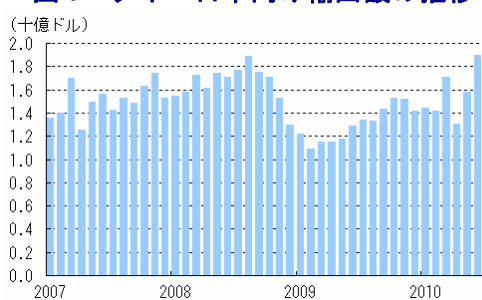
21日に発表された6月の輸出は、前年同月比+46.3%と前月（同+42.1%）から拡大し、前月比も+9.0%と前月（同+17.5%）から増加し、単月ベースの輸出額で過去最大となった。中国・香港向け輸出が引き続き拡大している上、先進国向けも堅調に推移するなど、世界経済の回復に伴って増加基調にある。日系自動車メーカーの生産移管の動きもあり、日本向け輸出は大きく拡大している。今後もアジア経済の堅調さに加え、生産移管先として輸出の重要性が高まると思われる。一方の輸入は、前年同月比+37.9%と前月（同+55.1%）から鈍化したものの、前月比+9.6%と前月（同▲0.1%）から大幅に増加した。輸出増に伴う生産拡大で雇用環境が改善し、個人消費が盛り上がるなど景気の好循環が生まれ、需要回復が輸入を押し上げている。なお、貿易収支は+23.22億ドルと前月（同+22.11億ドル）から黒字幅が拡大している。

図7 タイ 輸出入の推移(前年比)



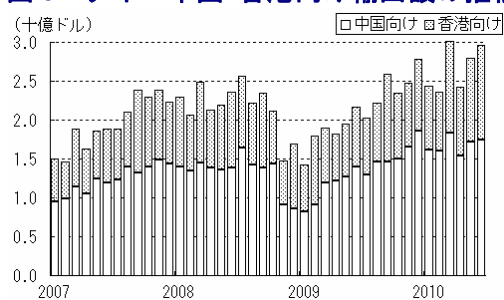
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 タイ 日本向け輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 タイ 中国・香港向け輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上